

ダイバーシティ事業 国際共同研究PI養成 事前調査プログラム
報告書

報告日：2019年2月27日

派遣者所属名	神戸大学保健学研究科
派遣者氏名	野田和恵
<p>国際共同研究タイトル：<u>高齢者向け支援機器や道具の認知面に着目した評価 KIREUMを使って</u></p> <p>本研究で使用するThe Karolimska Institutet Rapid Ease of Use Mapping of technology (以下、KIREUM)についての情報を得ることが事前調査プログラムの目的であった。認知面に着目したテクノロジー評価指標であるKIREUMは日本語版が無いため、まずは英語から日本語への翻訳と日本語版の作成が必要である。そこで、派遣期間中に以下の点について、事前調査を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Karolimska Institutet (KI/Sweden) のNygård教授から評価指標についてのレクチャーを受け、日本語版作成に必要な情報を得た。 18 February 2019, KI, Professor Louise Nygård and Dr. Camilla Walles Malinowsky. 2. 日本から持参したKIREUM英語版のトライアルの情報をもとに変更や修正が必要な箇所を確認し、改変の打ち合わせをした。 18 February 2019, KI, Professor Louise Nygård and Eva Lindqvist. 3. Nygård教授とそのチームメンバー (CACTUS team) から、スウェーデンでの高齢者向け支援機器や道具そして支援システムや研究の実施例を紹介してもらい、日本で実施する際の参考となる情報を得た。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 19 February 2019, KI, CACTUS Team' s new and ongoing research; Professor Louise Nygård, Ms. Sarah Walllcook, Ms. Elin Jacobsson, Dr. Camilla Walles Malinowsky and Dr. Anna Brorsson. ➢ 20 February 2019, FOU NORDOST, Dr. Annicka Hedman, PhD and research manager. ➢ 20 February 2019, Mörby Primärvårdsrehab, Ms. Jenny Nilsson, PT. ➢ 21, 22 February 2019, Verklingshetslabb Stureby (Living Lab), Professor Lena Borell. <p>これらで得た情報は、本研究での評価指標や手法に大変有用なものであった。これらをもとに2019年からスウェーデンとの国際共同研究を実施していく計画である。</p>	

海外派遣終了後の研究の進捗状況 (2020年2月現在)

開始年度：2020年。国際共同研究者：Professor Ma Hui-ing (National Cheng Kung University)。
研究概要：高齢者のなかでさらにターゲットを絞り、密接に関係するパーキンソン症候群、レビー小体型認知症 (DLB)、フレイルの訓練方法や生活支援を標準化する研究を計画している。この研究では運動機能、聴覚、嚥下機能、認知機能に焦点を当てる。チームメンバーは保健学研究科の作業療法士と医師である。将来的にKarolimska InstitutetやChiang Mai University (Thai) との共同研究の開始も視野に入れて進める計画である。